

千葉大学医学部附属病院で胃癌の手術を受けられた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年5月2日

食道・胃腸外科

食道・胃腸外科では、pStageII 胃癌における術後再発をきたしやすい高リスク因子に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2013年1月1日～2023年12月31日の間に胃癌手術を受けられた方
でステージ II と診断された方

1. 研究課題名

「pStageII 胃癌における術後再発高リスク因子の探索」

2. 研究期間

2026年（承認日）～2028年1月1日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

日本では胃がんになる人の数は以前より減ってきています。これは健康診断の普及や、原因の一つとされる「ピロリ菌」の治療が広まったことが大きく関係しています。しかし、それでも胃がんは日本人の死亡原因の中で上位を占めており、いまだに重要な病気です。手術でがんを完全に取りきれたように見える場合でも、時間がたってから再発してしまう人が一定の割合でいます。再発する可能性の高さを正確に予測することができれば、治療後の薬を選んだり、どのくらい注意して通院してもらうかを決めたりするために有用な可能性があります。

今回の研究では、比較的早い段階の胃がん（ステージ II）の方を対象に、再発しやすさに関係する手術後の病理検査の特徴を調べます。その中でも特に、がんが血管やリンパ管に広がろうとしていたかどうかの評価は、医師によって判断が分かれやすい点があります。そこで、より客観的でわかりやすい評価基準を作ることで、どの医師が評価しても同じ判断になるようにすることを目指します。

この研究によって、再発の危険性が高い方をより正確に見分けられる可能性があり、将来的にはより適切な治療や術後のフォローアップにつながることを期待されます。

本研究においては、氏名等の個人を識別できる情報を削除し、研究 ID に置き換えた試料・情報を診断を担当する病理医の在籍する、SUBARU 健康保険組合 太田記念病院に提供し、病理学的評価を行い、千葉大学附属病院で総解析を行います。

氏名等と研究 ID との対応表は外部には提供されません。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

手術時に採取された胃癌組織検体

診療録に記載されている身長、体重、病歴、血液検査値、治療経過

5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

研究代表機関名	研究代表者
千葉大学医学部附属病院	丸山 通広
共同研究機関名	研究責任者
SUBARU 健康保険組合 太田記念病院	今井 康雄
国際医療福祉大学塩谷病院	一瀬 雅典

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院食道・胃腸外科および各研究機関において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学及び各研究機関のホームページをご参照ください。

（千葉大学 URL : <http://www.chibau.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>）

7. 研究に関する相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

食道・胃腸外科 助教 藏田 能裕

043（222）7171 内線5294